

ID IM

愛媛大学「FD カレンダー」による FD 活動の普及に関する取組 - 学習動機を高める 6 つのコツ -

Efforts to Spread FD Activity with Ehime University's "FD Calendar"
- 6 tips for motivating students to learn -

仲道 雅輝

Masaki NAKAMICHI

熊本大学大学院教授システム学専攻博士後期課程

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 兼 総合情報メディアセンター 助教

nakamichi.masaki.me@ehime-u.ac.jp

＜あらまし＞ FD 活動を全学的に普及させるため、FD 活動の取組を紹介するポスターを作成し、1 年中活用できるポスターとして、学年暦情報も同時に掲載するカレンダーを作成した。全教員の研究室および学内各所に掲示され続けることで、FD イベントや研修会参加、授業コンサルティングサービス等を活用していただくことを促進するものである。それだけではなく、毎年授業支援のテーマ内容を変更し、教員の興味関心・探究心を喚起させるものとして作成した。今回は、アクティブラーニングをテーマに「学習動機を高める 6 つのコツ」と称して、インストラクショナルデザイン (ID) の代表的モデルのひとつである学習意欲動機づけのための ARCS 動機づけモデルを活用し、Attention (注意)・Relevance (関連性)・Confidence (自信)・Satisfaction (満足感) の 4 要素から 6 つのティップスを抽出し、FD カレンダーに掲載している。本稿では、全教員への普及に関する取組として、愛媛大学の実践事例を紹介する。

＜キーワード＞ 高等教育、ARCS モデル、FD (ファカルティ・デベロップメント)、教員支援、

1. はじめに

近年、高等教育機関において、学習効果を上げるためアクティブラーニングが注目されており、高等教育におけるアクティブラーニングの取組は確実に増えてきている。さらに、高等教育機関における対面授業の改善 (FD : Faculty Development) 活動が平成 20 年度より必須となったこともあり、FD 活動に積極的に取り組む組織も多く見られるようになってきた。しかし、実際には FD 講演会や 1 回限りのイベント等で終わっている取組も見受けられる。組織的な取組であっても教員個人が積極的に自らの授業改善に取り組む意識改革はこれからである。そこで、日常的に FD 活動の取組を周知すると同時に教員支援のツールとしてアクティブラーニングを行うコツを紹介したティップス、学年暦情報を一体化させた FD カレンダー (ポスター) (図 1 参照) を作成し、全教員 (約 1,000 名) へ配布

することで、研究室や学内に張り巡らされている状況を作り出し、教員の FD 活動等を積極的に推進する意識へと改善する試みである。また、研究室で学生・大学院生等の目に触れることによる副次的な効果 (学生等からの要望や学習動機を高めてもらう授業構成を期待してもらうと同時に受講者側の受け身的な意識から積極的・能動的な学習スタイルへと意識改革が行われていくことも期待している。

2. 「FD カレンダー」の概要

FD カレンダーは、3 つの要素を盛り込んで構成されている (表 1 参照)。

【表 1 : FD カレンダーに盛り込む 3 要素】

	要素
1	テーマ設定による内容 (ARCS モデル)
2	学年暦情報 (全学行事等)
3	FD 活動、研修会情報、等

2,000 部程度を A3 サイズで印刷している。また、FD 2 参照)。

活動を推進している部局の連絡先も掲載している。

2.1 テーマ設定による内容

テーマは、「学習動機を高める 6 つのコツ」とした。ARCS 動機づけモデルを活用（鈴木 1995）し、6 つのコツとして一部を加えて紹介している（表

ARCS 動機づけモデルは、提唱者である J.M.Keller によって、心理学研究などに基づいて、学習意欲停滞の原因を 4 つの要因に分類し、原因に応じた動機づけのための作戦を必要な分だけ織り込んでいくためのモデルとして、まとめられたものである。(Keller, 2010)。

【表 2：学習動機を高める 6 つのコツの内容】

鈴木（1995）

	6 つのコツ
1	（その 1）探究心を喚起させる（A） ① 授業の全体構造がわかる見取り図，メニュー，目次を最初に示す。 ② なぜだろう，どうしてそうなるのという素朴な疑問を投げかける。 ③ 失敗談や個人的・私的なエピソードから学生の気を引き授業を始めるが，徐々に授業で教えたい核心に近づける。
2	（その 2）注目を集める（A） ① オープニングにビデオ配信やあっと驚くタイトルのネーミングを付けるなどして，注意をひく。 ② 説明を長く続けずに，確認問題，練習，要点のまとめなどの変化を持たせる。 ③ ダラダラやらずに学習時間を 10～15 分程度に区切って進める。（学習の目安になる所要時間を設定しておく）
3	（その 3）学生自身の興味関心に関連づける（R） ① グループで競わせるなど，ゲーム的な要素を入れることで，勉強すること自体を楽しませる。 ② 学生がよく接しているテレビ，映画，アニメ，などを素材とする。 ③ 学生生活の中で抱える悩みや課題を解決するような内容とする。
4	（その 4）成功体験の機会を与える（C） ① 「千里の道も一歩から」。易しいものから難しいものへ，着実に小さい成功を積み重ねさせる。 ② 「失敗は成功の母」。失敗しても大丈夫な，恥をかかない練習の機会をつくる。 ③ 他人との比較ではなく，過去の自分との比較で進歩を確かめられるようにする。
5	（その 5）達成目標を意識させる（C） ① 本題に入る前にあらかじめゴールを明示し，どこに向かって努力するのかを意識させる。 ② 何ができたならゴールインなのかがわかる合格基準や条件をはっきり具体的に示す。 ③ 目標を「高すぎないけれども低すぎない」「頑張ればできそうな」ものにする。
6	（その 6）満足感を与える（S） ① 目標に達成しているかどうかをチェックリストに基づき，確認する機会をつくる。 ② 困難を克服して目標に到達した対象者にプレゼントを与える。（「おめでとう！」「がんばりました！」の文字など） ③ 授業で修得した知識や技能の利用価値や重要性を何度も強調する。

もっと!! 6 tips for Motivating Students to Learn

学習動機を高める6つのコツ

もっと!! 学習動機を高めるコツ その①

探究心を喚起させる

Why is it?

- 授業の全体構造がわかる見取り図、メニュー、目次を最初に示す。
- なぜだろう、どうしてそうなのという素朴な疑問を投げかける。
- 大規模や個人的・私的なエピソードから学生の気を引きつける。授業の目的が、徐々に授業で教えるべき点に近づける。

もっと!! 学習動機を高めるコツ その②

注目を集める

It gets interested

Attention

- オープニングにビデオ配信があると動くタイトルをキーボードを打つなどして、注意をひく。
- 資料を長く読まずに、短期間、練習、要点的まとめなどの変化を促す。
- グラフィックやイラストに学習時間を10～15分程度に設定して教える。(学習の目的になる所要時間を設定しておく)

もっと!! 学習動機を高めるコツ その③

学生自身の興味関心に関連づける

Relevance

- グループで働かせるなど、ゲーム的な要素を入れることで、興味すること自体を楽しませる。
- 学生がよく知っているテレビ、映画、アニメなどを教材とする。
- 学生生活の中で抱える悩みや問題を解決するような内容とする。

2012

4	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	5	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	6	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	7	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
1	2	3	4	5	6	7		1	2	3	4	5				1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
8	9	10	11	12	13	14	15	6	7	8	9	10	11	12	13	3	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	15
15	16	17	18	19	20	21	22	13	14	15	16	17	18	19	20	10	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	22
22	23	24	25	26	27	28	29	20	21	22	23	24	25	26	27	17	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	29
29	30							27	28	29	30	31				24	25	26	27	28	29	30		29	30	31					

【行事】FD・SDスキルアップ講座 C国は国語科・英語科
C国は国語科・英語科・国語科・国語科・国語科・国語科・国語科・国語科

8	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	9	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	10	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	11	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
5	6	7	8	9	10	11	12	2	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	14	4	5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18	19	9	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	21	11	12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25	26	16	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	28	18	19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31			23	24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31					25	26	27	28	29	30		

【行事】FD・SDスキルアップ講座 C国は国語科・英語科
C国は国語科・英語科・国語科・国語科・国語科・国語科・国語科・国語科

12	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	1	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	2	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	3	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16	6	7	8	9	10	11	12	13	3	4	5	6	7	8	9	10	3	4	5	6	7	8	9	10
16	17	18	19	20	21	22	23	13	14	15	16	17	18	19	20	10	11	12	13	14	15	16	17	10	11	12	13	14	15	16	17
23	24	25	26	27	28	29	30	20	21	22	23	24	25	26	27	17	18	19	20	21	22	23	24	17	18	19	20	21	22	23	24
30	31							27	28	29	30	31				24	25	26	27	28				24	25	26	27	28	29	30	31

【行事】FD・SDスキルアップ講座 C国は国語科・英語科
C国は国語科・英語科・国語科・国語科・国語科・国語科・国語科・国語科

もっと!! 学習動機を高めるコツ その④

成功体験の機会を与える

Success

- 「千里の道も一歩から」。難しいものから簡単なものへ、確実に小さな成功を積み重ねさせる。
- 「失敗は成功の母」。失敗しても大丈夫な、恥をかかない練習の機会をつくる。
- 他人との競争ではなく、過去の自分との比較で進歩を確かめられるようにする。

もっと!! 学習動機を高めるコツ その⑤

達成目標を意識させる

Confidence

Goal

- 本題に入る前にあらかじめゴールを明示し、どこに向かって努力するのかを意識させる。
- 何ができたかゴールまでの道のりがわかる成果表や進捗表を毎日具体的に示す。
- 目標を「高すぎないけれども低すぎない」「達成すればできるもの」にする。

もっと!! 学習動機を高めるコツ その⑥

満足感を与える

Satisfaction

- 目標に達成しているかどうかをチェックリストに基づき、確認する機会をつくる。
- 結果を褒めて目標に達成した対象者にプレゼントを用意する。(「おめでとう」「がんばりました」の文字など)
- 授業で学んだ知識や技能の活用機会や学習意欲を高める機会とする。

授業デザインワークショップ 7月7日(土)・8日(日) 9月5日(水)・6日(木)

シラバスの書き方から成績評価まで「授業の基本」を2日間集中して学びます。

夏季FD・SDスキルアップ講座 8月28日(火)～9月11日(火)までの毎週火・金曜日午後 全日講座

「大人数授業の基礎」「わかりやすいシラバスの書き方」など多様な講座を2時間で手軽に学びます。授業内容の詳細は4月発行予定の研修プログラムガイドをご覧ください。

授業コンサルテーションサービス (随時受付中)

教育企画室スタッフが教室に入り、授業に対する学生のコメントを丁寧に聞き取り、そのデータに基づいて、授業の強みと課題を提示し、更なる改善のお手伝いをいたします。

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 Tel 089-927-8922 info@lec.ehime-u.ac.jp http://web.opar.ehime-u.ac.jp/

【図1：FDカレンダー（ポスター）】

面白そうだな（注意：Attention）、やりがいがありそうだな（関連性：Relevance）、やればできそうだな（自信：Confidence）、やってよかったな（満足感：Satisfaction）の頭文字をとって ARCS モデルと命名されている。

他に検討しているテーマは、次のとおりである。

「授業時間外学習を促す 6 つのコツ」「授業を良くする 6 つのコツ」「シラバスを良くする 6 つのコツ」「グループワークをコントロールする 6 つのコツ」などである。

2.2 学年暦情報の掲載

研究室に貼りたくなる情報を掲載することで、同時に FD 活動の取組や「学習動機を高める 6 つのコツ」を紹介することを狙っている。高等教育機関では、必ず「学年暦」が教授会で確認され、ホームページ上に掲載されている。しかし、研究室等にポスターとして貼り出しておくことで、便利に役立てるために、学年暦情報を中心に掲載している。学年暦情報も精選し掲載している。入試日程、授業開始日、前期・後期授業開始日、授業終了日、夏季・冬季休業期間、入学式、学位記授与式、全学英語統一試験日、大学祭、特別選抜入試日程、オープンキャンパス日程である。

2.3 FD 活動の取組紹介

学年暦情報を見るついでに、FD 研修会・セミナー情報が目に入ってくる。また、「学習動機を高める 6 つのコツ」が掲載されており、教員自ら修得したいと思う動機づけを促している。そこで、FD 研修会やセミナー情報により、研修会への申込みを容易にできるようにしている。スキルアップを試みやすくしている。年間を通して行われているセミナーを周知すると同時に、参加を促す試みとして期待している（表 3 参照）。

【表 3：FD 活動の内容】

	FD セミナー等の内容
1	授業デザインワークショップ
2	FD・SD スキルアップ講座

3	授業コンサルティングサービス
4	新任教職員研修会、TA・SA 研修会
5	教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ
6	わかりやすいシラバスの書き方 研修会
7	大人数講義法の基本 研修会
8	効果的な授業改善の方法 研修会
9	SPOD フォーラム開催情報

3. FD カレンダー配布による効果予測

FD カレンダーを全教員に配布することによる効果としては、次のことが想定される。

- ① 研究室に貼り出される。
- ② 学年暦情報の入手方法として活用される。
- ③ FD 研修会・セミナー等の開催情報の周知。
- ④ 学生・大学院生等の目に触れることで、学生が自ら積極的・能動的な受講スタイルを構築していくきっかけとなる。
- ⑤ 各種研修会・セミナーへの参加者が増加する。
- ⑥ 各教員の授業構成等の見直しが行われ、教育の質保障の試みとして発展していく。

4. 今後の展開・課題

今後は、「FD カレンダー」を全教員に配布することによる効果検証を、アンケート調査および教員ヒアリングならびに教員の FD 研修会等への参加状況のデータ分析により、実施していく。また、FD カレンダーを基礎にして ICT 技術を活用した授業改善や全学的な e ラーニング普及の試みへと発展させていく。そして FD 活性化・普及のポイント等をまとめ、広く高等教育機関で活用できる普及モデルとして提案して成果へと導きたい。

参考文献

- Keller, J. M. (2010) 学習意欲をデザインする：ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン、鈴木克明監訳、北大路書房
- 鈴木克明 (1995). 放送利用からの授業デザイナー入門. 日本放送教育協会